

「現場の教員はどのような教員を望んでいるか」

[私立 N 高等学校 理科] 氏名：F.Y

私が考える「現場の教員が求めている教員」は、一つ目に新しい教育方法を取り入れる事の出来る行動力と、勉強意欲のある教員だと思います。なぜなら、現在の教育現場は昔のように黒板とチョークと教師だけでなく、ICT を活用した授業やアクティブラーニングを取り入れる必要があるからです。しかし、現場の教員やこれから教員になろうと考えている人は、昔ながらの授業を中心に受けていました。したがって、昔ながらの教育になりがちであることに加え、昔ながらの授業が良いとさえ考えてしまっているのです。確かに、新しい教育方法より良い面があるかもしれませんが、しかし、今文部科学省や日教組が推進している意味を考える必要があるのです。だからこそ、現場の教員は、パッションと行動力のある人を求めていると感じています。

私が、教育実習に行かせていただいた学校も、まだまだ旧式の授業で大半が行われていましたし、新しい教育方法を取り入れようと試みている先生方も手探りで授業をされていました。また、私も研究授業等で ICT 活用と班活動を取り入れて授業を行いました。すると見に来ていただいた先生や、教科担当の先生から「とてもよかった」とお褒めの言葉を頂きました。一方、その新しいチャレンジであるがゆえにうまくいかない点も多くありそのご指摘もいただきました。また新しい授業方法であることから、どうしても今までの授業方法よりも授業前準備が必要になってしまいます。したがって、時間のない先生方であればより毎時間継続することは困難になり、つつい旧式の授業になってしまいます。なので、私たちのような体力があって熱意のある者たちが実践していくことが求められているのだと感じます。

二つ目に、障害のある子どもとそうでない子どもとをどのように区別し、いかにして共に生活させていけるかだと思います。私は実習中に保健室の先生の所にお話しを聞きに行きました。それは、教職を履修していて、また自分の今までの人生の中で学校の現状、教育現場の状況を一番表しているのは保健室だと考えたからです。どんな悩みを持った生徒がいて、なぜ教室を出て保健室に来るのかを聞きに行きました。その中で、障害を持った子どもたちの話をさせていただきました。そこで障害と認定する手段や方法、早期発見が進んだ為に、障害のある子どもが増えているとお聞きしました。私は、障害のある子どもが増えているのは、高齢出産や社会状況があると感じていたのでその話を聞いて驚きました。障害のある子どもの扱いがマニュアル化され、先生は基本的にそれに乗っ取って指導を行います。昔なら一緒に行動していた子どもが今は区別されているのです。これは、本当に良いことなのでしょうか。確かに、障害にあった指導方法が子どもの今の状況にとっては最適かもしれません。しかし、周りの子どもやその子自身の将来を想像したときに本当にこれで良いのかと思いました。したがって、今の先生は、自分で考えて、障害のある子どもについて観察や勉強を行い、何がその子と周りの子にとって最適なのかを見極めて、行動できる力が必要だと思います。